

３７号

ビブリオバトル　再来週です

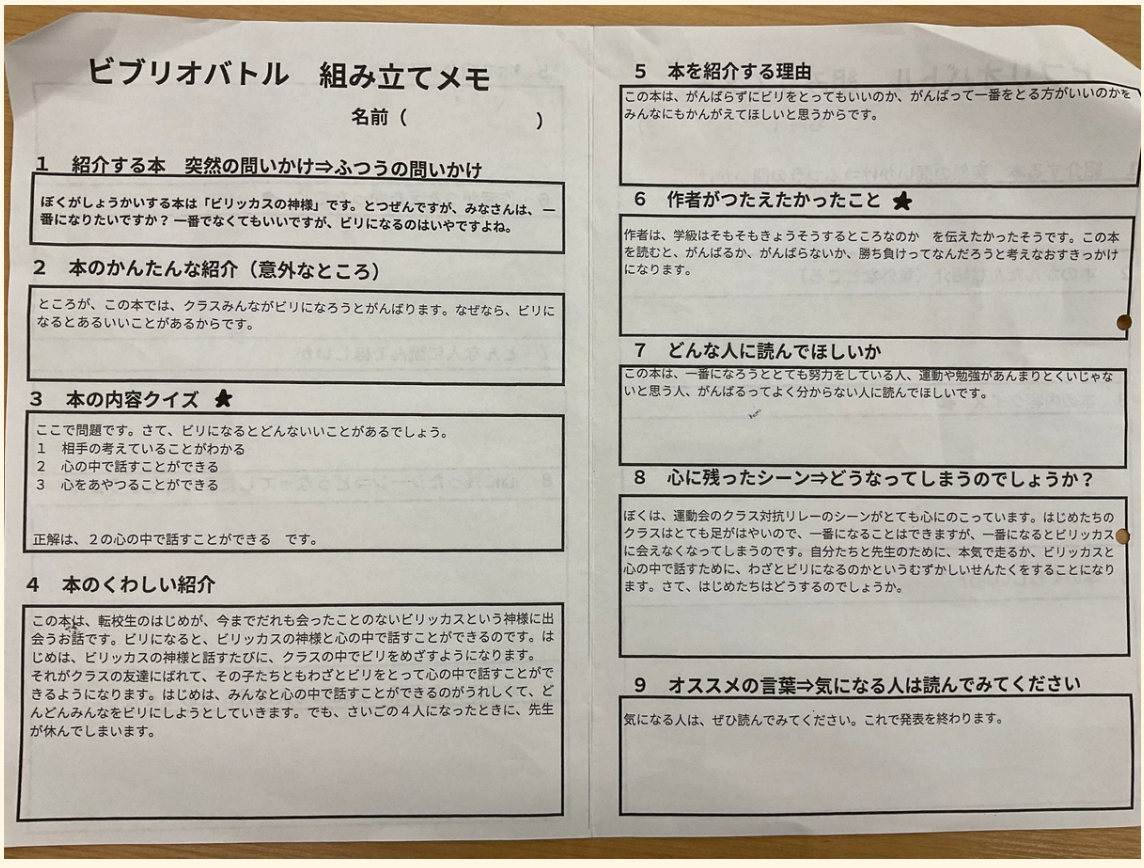
　再来週、ビブリオバトルを実施します。子どもたちの意欲は高く、「先生、５回練習してきました」「発表の練習、見てください」と、やる気たっぷりの声があちこちから聞こえてきます。

■　原稿の構成

　発表原稿は、次の構成で作るよう指導しています。

はじめ：問いかけ＋本の題名
中１：本の簡単な紹介（つかみ）＋内容クイズ＋詳しい紹介
中２：紹介する理由＋作者が伝えたかったこと＋どんな人に読んでほしいか
おわり：心に残ったシーン＋おすすめの言葉

下の写真は、前年度のチャンプの子の原稿です。



ビブリオバトル　組み立てメモ

名前（　　）

1　紹介する本　突然の問いかけ⇒ふつうの問いかけ

ぼくがしょうかいする本は「ビリッカスの神様」です。とつぜんですが、みなさんは、一番になりたいですか？一番でなくてもいいですが、ビリになるのはいやですよね。

2　本のかんたんな紹介（意外なところ）

ところが、この本では、クラスみんながビリになろうとがんばります。なぜなら、ビリになるとあるいいことがあるからです。

3　本の内容クイズ ★

ここで問題です。さて、ビリになるとどんないいことがあるでしょう。
1　相手の考えていることがわかる
2　心の中で話すことができる
3　心をあやつることができる

正解は、２の心の中で話すことができる　です。

4　本のくわしい紹介

この本は、転校生のはじめが、今までだれも会ったことのないビリッカスという神様に出会うお話です。ビリになると、ビリッカスの神様と心の中で話すことができるのです。はじめは、ビリッカスの神様と話すたびに、クラスの中でビリをめざすようになります。それがクラスの友達にばれて、その子たちともわざとビリをとって心の中で話すことができるようになります。はじめは、みんなと心の中で話すことができるのがうれしくて、どんどんみんなをビリにしようとしていきます。でも、さいごの４人になったときに、先生が休んでしまいます。

5　本を紹介する理由

この本は、がんばらずにビリをとってもいいのか、がんばって一番をとる方がいいのかをみんなにもかんがえてほしいと思うからです。

6　作者がつたえたかったこと ★

作者は、学級はそもそもきょうそうするところなのか　を伝えたかったそうです。この本を読むと、がんばるか、がんばらないか、勝ち負けってなんだろうと考えなおすきっかけになります。

7　どんな人に読んでほしいか

この本は、一番になろうととても努力をしている人、運動や勉強があんまりとくいじゃないと思う人、がんばるってよく分からない人に読んでほしいです。

8　心に残ったシーン⇒どうなってしまうのでしょうか？

ぼくは、運動会のクラス対抗リレーのシーンがとても心にのこっています。はじめたちのクラスはとても足がはやいので、一番になることはできますが、一番になるとビリッカスに会えなくなってしまうのです。自分たちと先生のために、本気で走るか、ビリッカスと心の中で話すために、わざとビリになるのかというむずかしいせんたくをすることになります。さて、はじめたちはどうするのでしょうか。

9　オススメの言葉⇒気になる人は読んでみてください

気になる人は、ぜひ読んでみてください。これで発表を終わります。

持ち時間は３分です。聞き手に問いかけたり、挿絵を見せたりと工夫しながら、時間いっぱい使えると素晴らしい発表になります。

■　ご家庭でお願いしたいこと

今はICTの時間に、Keynoteへ原稿を打ち込んでいます。おすすめは、この原稿を一緒に見ることです。そのとき、**「どこが好きなの？」と聞いてみてください。**子どもが答えた言葉の中に、原稿に足りなかったものが入っていることがよくあります。それを書き加えるだけで、ぐっと伝わる原稿になります。もうひとつおすすめなのが、発表の様子を動画で撮ることです。自分で見返すと、立ち姿勢や表情に自分で気づけます。大人が指摘するより効果があります。どちらも、５分あればできます。時間が取れないときは、どちらか一方でも構いません。

■　大人の目が役に立つ理由

子どもたちは、「いい発表とはどういうものか」をまだあまり知りません。見てきた数が、圧倒的に少ないからです。一方、大人は日々さまざまな紹介や宣伝に触れています。「ここをもっと詳しく聞きたくなった」「最初のひとことで引き込まれた」――そうした感想を伝えるだけで、子どもの中に「いい発表」の形ができていきます。なお、**学校で教えた型どおりでなくても、まったく問題ありません。**お子さんが伝えたいことが伝わる形であれば、それが正解です。

■　なぜ２年生でやるのか

原稿を作り、練習を重ね、堂々と発表する。この経験は、この先ずっと役に立ちます。そして、早い時期にやっておくほど効果が大きいと考えています。今回学ぶのは発表の仕方だけではありません。「どう練習すればうまくなるか」という方法そのものを身につけられるからです。これが分かると、次からは自分の力で準備できるようになります。やがては、短い時間で原稿を作れるようになり、練習なしでも堂々と話せるようになっていきます。２年生後半は、学習の中心を「覚える」から「使う・探る」へ少しずつ移していく時期です。ビブリオバトルは、その絶好の機会だと考えています。ぜひ、ご家庭でもお力添えいただけますと幸いです。

参考動画　昨年のチャンピオン動画 リンク
https://drive.google.com/file/d/16gXAs85s1V9lwZyY3-kS0wvpK51rkUUA/view?usp=sharing